

Message to you

日銀グランプリに入選しました



経営学部市場経営学科4年

矢口

堯之さん

経営学部経営戦略学科4年

大高

将義さん

経営学部経営学科4年

清水

健さん

(写真左から)

私たちは、金融論を学ぶ平田ゼミに所属しています。平田ゼミでは学問や仕事すべてに通ずる「考える力」を身に付けることを大切にしています。プレゼンテーションでは単に資料をまとめ発表するのではなく、論理的な説明ができるよう心がけています。

日ごろの勉強の成果を試すべく、今回、日銀グランプリに応募し、佳作をいただくことができました。日銀グランプリとは日本銀行が学部生向けに募集している懸賞論文です。今年度のテーマは「わが国の金融を巡る課題と処方箋」。私たちは「二千円札を巡る課題と処方箋」という論文を提出しました。私たちが二千円札を見る機会はほとんどありません。「なぜだろう?」と、3人で調べてみようと思ったのがきっかけで、このテーマに決めました。

あまり出回っていない二千円札ですが、実は理論的には利便性が高く多くの人に使われるべきお札だとわかりました。さらに、なぜ普及していないのかを、海外との比較やATM・自動販売機などの環境面から検証しました。しかし先行研究がほとんどなく、本やネットで調べて書くよりも、自分たちで考

えては仮説を立てそれが正しいのかを検証する作業の繰り返しでした。全国の銀行など50以上の企業にヒアリングを行いました。最初は詳しくお話しただけず歯がゆい思いをしました。勉強が進み知識が少しずつ増えていくにしたがって詳しく聞かせていただけようになりました。それが、私たち自身の勉強不足のためだと気づいた瞬間でした。自分自身がしっかり調べ、深い質問をすることで、熱意をくんでいろいろお話を聞かせていただくことができました。

教科書のような道しるべのない勉強で、思うようにはかからないことも多かったのですが、普段のゼミで培った力が役に立ったように思います。また、チームで論文を書くことは思っていた以上に難しく、3人が同じ方向を向いて行動を起こさなくてはなかなか良いものは作れません。実際、私たちも何度も話し合い、論文の内容や目的を議論しました。

懸賞論文を通じてチームワークの難しさや大切さ、行動により深みのある文章が書けるということを知りました。そして何より今まで自分たちがやってきたことに対する自信を持つことができました。

■お知らせ

※家族や友だち、お世話になった人などに、あなたのいろいろな思いを、あなたの言葉で伝えてみませんか? (家族やふるさとの友だちに近況報告、卒業する先輩へ一言、大学生活の中で思ったこと感じたことなど)

形式は自由、文章だけでなく、写真、イラストを使っても構いません。

※ただし、文章は800字以内。写真、イラストはいずれか1点とします。

※氏名(ふりがな)、学部・学科・学年、出身地を明記して、下記のメールアドレスに送ってください。

採用の可否は応募者に直接ご連絡いたします。

■応募アドレス: pr@adm.hosei.ac.jp (雑誌「法政」編集部)